

RESTART!

長い長い分断の時を経て、再び動き出すことができた1年でした。海外研修、地域との交流、各種大会の対面開催…思い切り笑って、泣いて、苦悩して…レジリエンス(再生する力)を発揮しながら新しい時代を駆け抜けていきましょう!



行って
きました!



海外研修再開!

カンボジア スタディツアー

2月16~23日、高校1・2年生の希望者を対象に、カンボジアへ研修に行ってきました! 本校では、2019年度以来、4年ぶりの海外研修であり、初めての東南アジア研修です。11月から4回の事前研修、予備調査を経て、高1年3名、高2年5名の計8名が現地の人々と触れ合い、世界の課題を学びました。5月に、研修の報告会を予定していますので、お楽しみに!

DAY
1~2

長野ー羽田空港ーカンボジア・プノンペン



羽田空港を出発!

2月16日、長野から羽田空港へ移動し、午後11時ごろ日本を出発。シンガポールのチャンギ国際空港を経由して、17日朝、カンボジアの首都・プノンペンに到着しました。気温は35度を超え、長野との寒暖差に体がびっくり!

お昼は、現地の日本語学校に通うカンボジア人の学生と一緒に会食しました。カンボジアの食文化を教えてもらいました。彼らはこれから技能実習生として来日予定で、よい情報交換ができました。その後、トゥクトゥク(バイクタクシー)にのったり、現地のマーケットや王宮を訪問したり、カンボジアを感じる1日でした。



日本語学校のみなさんと

DAY
3

トゥールスレン虐殺博物館 / キリングフィールド



虐殺された人の遺骨が並ぶ
キリングフィールド

独裁者ポル・ポトが行った大量虐殺の歴史が遺される2つの施設を訪問しました。トゥールスレン虐殺博物館は、政治犯などを収容し拷問を行った場所です。農業での国づくりを極端な方法で進めたため、農業に不要な知識を持った学者や教員の他、ただ眼鏡をかけているというだけで収容や処刑の対象となりました。

キリングフィールドは、こうした人たちの処刑場で、現在でも雨が降ると埋められた死者の遺骨が流れ出す場所です。カンボジアの悲劇的な過去に向き合いました。

その後バスで6時間、シエムリアップに移動しました。



トゥールスレンは元々高校の校舎だった

DAY
5

Kumae / バイオン高校



ゴミ山を目の前にして言葉をなくす

日本人の若き起業家、山勢拓弥さん主宰のバナナペーパー工房「Kumae」。ゴミ山で資源を拾って生活する子どもに未来の選択肢を作りたいと、大学を中退してカンボジアに渡った想いをお聞きました。バナナの茎で作られる紙を丈夫な紙へと改良し、ポーチやバッグなどに加工して、唯一無二の製品を創り出していました。



カンボジアの高校生とワークショップ

午後は現地の高校へ。中学校がなかった村に、私財を用いて中学・高校を作ったのは日本人建築家の女性とそこご主人。1000人を超える生徒を17人の教員で支えています。一緒にダンスをしたり、ワークショップを行ったりして交流しました。「相互理解」とは何か、異なる文化の壁を越えた体験となりました。

DAY
4



世界的デザイナーも訪れる
伝統の森の工房



アキ・ラーさんの案内で平和学習

IKTT伝統の森 / アキ・ラー地雷博物館

ポル・ポト時代に廃れたクメール・シルク(カンボジアの絹織物)を復興させるために故・森本喜久雄さんが作った村を訪問しました。貧困を脱するために高い技術を身につけること、家族と一緒に生きることを大切に、ワーク・ライフ・バランスの理想的な形を実現しています。「幸せとは何なのか」「大量消費の功罪」など、先進国が抱える課題を考えるヒントがたくさんありました。

午後はポル・ポト派の少年兵だったアキ・ラーさんが行う地雷撤去のお話を聞きました。アキ・ラーさんの半生は、3年前まで中学の英語の教科書にも掲載されていました。平和とは何か、深く考える機会になりました。

DAY
6

タイ国境の地雷原 / トンレサップ湖 水上集落

ポル・ポト政権崩壊後、ポル・ポトは政府軍から追われ、タイ国境まで逃げました。政府軍の進軍を防ぐために大量に埋められた地雷は、いまだに完全に撤去できてはいません。シエムリアップから3時間離れた村で、地雷撤去作業を見学しました。暑い中、重い防具を付けて命の危険と向き合いながらの作業をする姿を見て、内戦の残した爪痕の深さを感じました。この日も地雷や不発弾などが見つかり、最後にダイナマイトで爆破する作業を体験させてもらいました。



重いプロテクターを着けて地雷原へ



埋まっている地雷を見学

東南アジア最大の湖、トンレサップ湖で水上生活をする村を見ました。学校やお寺などもいかに建てられており、人間の逞しさや面白さを再発見するとともに、環境・貧困の問題を考えました。



水上での暮らし

DAY
7

アンコール・ワットほか遺跡群

カンボジアで最も有名なのは、ユネスコ世界遺産にも指定されているアンコール・ワット。最終日の早朝、12世紀に建造されたアンコール・ワットで、日の出を鑑賞し、内部の見学をしました。16世紀、日本からの巡礼者が遺した落書きなどもあり、日本とカンボジアのつながりが深かったことを知りました。

アンコール・トム、タ・プロームなど、他のアンコール遺跡群も見学しました。支配者が目まぐるしく変わることで、古い文化が壊されたり新しい文化が生まれたりする変遷が見て取れました。またこうした遺跡もポル・ポト時代に破壊されたり、地雷が埋められたりしたことも知りました。遺跡修復には、日本など多くの国が技術支援を行っています。



世界遺産 アンコール・ワットで日の出鑑賞

DAY
8

帰国

シエムリアップから、シンガポールを経由し、日本に帰国しました。「帰りたくない!」と思うぐらい充実した旅だったこと、経験を積んで新しい価値観が芽生えたことなど、実り多い旅になりました!



タ・プローム

Change Maker ~何かを創り出すことの面白さをみんなに~



JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト
最優秀賞の外務大臣賞受賞!
 高1-7 細井 美愛さん 今夏、フィリピン研修へ



全国高校生マイプロジェクトアワード2023
長野県サミット 県知事賞 受賞
全国サミット 全国優秀賞



今年で62回目を迎えた歴史あるJICAエッセイコンテスト。今年度のテーマは『地球に生きる私たち ~未来へつなげるために~』。

高校生の部2万点を超える応募の中、高1-7 細井美愛さんが、最優秀賞にあたる外務大臣賞を受賞しました。

受賞作『大河の一滴』は、廃油の水質汚染の問題、合成洗剤の原料となるパーム油の複合的な問題を解決するために、中学の生徒会で行った「廃油石鹸プロジェクト」での体験を振り返る作品です。細井さんは作品の最後に「大河は一滴の水から始まる。自分は最初の一滴となり、人々を巻き込んで、未来に豊かな地球を残す」と、今の私たちにできる“小さな一歩”を示しています。

副賞として、細井さん他上位入賞者6名には、海外研修(フィリピン)が贈られました。



JICA東京での授賞式(2/17)

高2-7 神田 紗希さん・丸山 詩乃さん

「日本最大級の学びの祭典」と言われる『全国高校生マイプロジェクトアワード』に、高2-7神田紗希さん、丸山詩乃さんが挑みました。

1月27日、地区予選となる長野県サミットでは、全国サミットへ進出する2つのプロジェクトに与えられる「県知事賞」を受賞。

3月22-24日、東京有明で、全国2600プロジェクトの中から選ばれた48のAll Star Teamとしてプレゼンテーションを行い、全国優秀賞を受賞しました。



長野県サミットでのプレゼン



この賞は7期生徒会の仲間みんなで獲ったものだと思います。2年半前、私が生徒会長選挙の公約で掲げた廃油石鹸活動。始めた当初は右も左も分からず、みんな「本当に廃油で石鹸が作れるの?」みたいな微妙な感じだったのをよく覚えています。

トライ&エラーを繰り返した私たちの廃油石鹸づくり。私が卒業するときには、文中の生徒全員が「廃油石鹸?もちろん知ってるよ!」と言えるぐらい、地球環境を自分事として考えるきっかけになったのではないかなと思います。人の意識をちょっと変えると世界も変わる。このことを特に実感することができた1年でした。

この活動がエッセイとして、多くの人目に触れるようになったことはとても嬉しいです!夏休みの海外研修でも、出会いを大切に、視野を広げ、楽しんできたいと思います!! (細井美愛さん)



優秀作品はJICAウェブサイトでご覧いただけます!



マイプロジェクト全国サミットは、プロジェクトを始めた中学2年の時からひとつの目標としていた大きな舞台でした。プレゼンカ、プロジェクト内容、発見や学び...全国から集まったチームはどれもレベルが高く、その中でプレゼンできたことは私にとって、とても貴重な経験となりました。

好き、嫌い、嬉しい、悔しい。私たちには様々な感情が存在します。そんな一人一人が抱いた感情が起源となって、深い学びへと向かい、人を動かし、人を繋いでいく。たくさんのプレゼンを聞いて、感情は“感じる”だけでなく、“考える”に発展させることが、この先の社会を生きる私たちに必要なのだと、気づくことが出来ました。(丸山さん:写真右)

本校の「本気の探究」が評価され始めた理由は何か

今年度、探究合同ゼミでは、プレゼンテーション、弁論、エッセイなどジャンルを問わず様々なコンテストで探究の発表を行ってきました。

どの大会でも、上位入賞者の作品に共通するのは...

「**オンリー・ワンの体験から課題を見つけ、解決策を試行錯誤する中で何を学んだかを表現する**」

という点。知識の多さ、話し方、語彙力・文章力といった、教員が手を入れれば解決できるような表面的な力だけでは太刀打ちできない「何かを変える可能性」を見抜かれ、評価されているのです。

探究合同ゼミでは、新しい何かを創り出すこと、何かを変えることを目標に、実際にアクションする長期的プロジェクトを行っています。研ぎ澄まされた感性で物事を見て、未来を想像しながら行動し、自分の言葉で伝えることが、チェンジ・メーカーの資質なのだ改めて感じた1年でした。

(探究合同ゼミ指導:榎本)

【インターアクト独自研修】 JICA駒ヶ根へ



インターアクトクラブ独自研修は、部員が主体的に考え、やりたいことを企画運営する研修のことです。

今年度は、3/25(月)、JICA駒ヶ根海外協力隊訓練所にて研修を実施しました。当日はネパール出身のゲストティーチャーを招待し、国や世代を超えた仲間との対話を深めました。企画からバスの手配まで、力を合わせて作り上げた研修でした。

感想 この研修で「100人村」というワークショップを行いました。このゲームにおける富裕層は、現実での先進国、つまり日本のような国を表します。他国の現状を知らないうちに、私たちは無意識に貧しい国々の必要なものを奪っていることに気付かされました。今回の体験を通して、貧しい国の出来事をただ愁嘆するのではなく、現状や課題を積極的に知り、自分に出来ることを探ることが大切であると気付きました。それが、幸せすぎるほどの恵みを得ている先進国の責任だと思えます。(部長 高2-5 五明紗弥さん)

TOPICS

ESD 信州ESDコンソーシアム 2023年度成果報告会に参加しました。

令和6年2月3日(土)に開催された『信州ESD/SDGs成果発表会』に、本校4チームが参加しました。全国ユネスコエコパークで学ぶ学校の生徒や、長野県内ユネスコスクールの生徒達がこの1年を通して追究した学びの成果を発表、世界に向けて発信しました。



<https://esd-nagano.org/conference/introduction/2023/>

- ① 中学2年 (津田・高橋・山田か・小林・持田・松澤)
『My Hometown NAGANO~わたしたちの街 長野を世界に売りこむ!』
- ② 探究合同ゼミ (高2-7 神田・丸山)
『学校も自分もレポリューション!ルールメイキングプロジェクト』
- ③ 中学生徒会 (中3 寺島・峯村、中2松澤)
『文化学園長野中学校で取り組む 私たちのSDGs』
- ④ 高校生徒会 (高2-7 橋本、高2-4 松本、高2-5 田中) 『誰も取り残さない生徒会』



【地域交流】 芹田小4年生と「哲学対話」

2月27日に芹田小学校4年生の皆さんと本校中2生が「哲学対話」を通じて交流を行いました。

哲学対話とは、哲学的なテーマについて、参加した人と一緒に考え、対話するというものです。今回は、「失敗はいけないこと?」「嘘をつくのは悪いこと?」の2項目について話し合いました。



中学生は、改めて自分自身の価値観や物の見方・考え方を見直す機会になったほか、小学生と交流したことで、協力することの大切さを理解し、お互いに思いやりの心を持つことの大切さを学ぶことができた。また、年齢の違いによる様々な経験や視点の違いを持つ相手と交流したことで、お互いに異なる価値観やバックグラウンドを理解し、新たな考え方や視野を得ることができた。(中2 松澤聖治さん)

BGNユネスコニュース
**あなたの知られざる活躍を
 教えてください!**



★中学職員室 BGN編集担当(長田・榎本)まで教えに来てください!

学校外で面白いことをしている人、他校や社会人団体の人たちとSDGsに関わる活動をしている人など、本校の隠れた逸材を探しています!取材の上、本誌に掲載させていただきます。自薦・他薦は問いません。年中募集中です。これからの活動も大歓迎です!